

令和8年1月5日

年頭記者会見

次 第

1. 市長年頭所感
2. 「市指定ごみ袋お試しセット」の配布について
3. その他

日時：令和8年1月5日（月） 14：00より

場所：本庁舎 4階 庁議室

年頭所感

市民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃から市政にお寄せいただいておりますご支援、ご高配に対しまして、厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、昭和 100 年を迎えた昨年も、本市では様々な出来事がございました。

まず 2 月の大雪の際には、本市における観測史上最大の積雪深が記録され、災害救助法の適用を受けたところであります。

通勤通学や通院などの市民生活をはじめ、農業や観光業にも深刻な影響が及び、雪国の厳しさを改めて痛感いたしました。

本市では、昨年の大雪の対応にかかる検証を踏まえ、除雪の出動基準の見直し、除雪車両の増車、主要な交差点部の雪山を優先的に除去する「山取班」を配置することとし、さらに市の体制として、「災害級の大雪時におけるタイムライン」を新たに作成したところであります。

今後も、関係機関と連携を図りながら、効率的かつ効果的な除排雪体制の確立に向け、より一層の雪対策に取り組んでまいりますので、市民の皆様には引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、昨年は、猪苗代湖がラムサール条約湿地へ新たに登録されたことに加え、全国新酒鑑評会において、福島県が金賞受賞蔵数で3年ぶりに日本一を奪還するなど、明るい話題も数多くあり、さらに、鶴ヶ城天守閣が再建から60周年、神奈川県横須賀市との友好都市締結から20周年、北海道余市町との親善交流都市締結から10周年を迎えるなど、様々な節目の年でもありました。

とりわけ、これまで整備を進めてまいりました市役所新庁舎につきましては、市民の皆様をはじめ、先人の方々や関係者の皆様、さらにはご寄附をいただいた皆様の多大なるお力添えのもと、おかげさまをもちまして完成の運びとなりました。

5月からの業務開始を契機に、新庁舎が本市のシンボルとして多くの人が集い賑わいを創り出す場、市民の皆様の安全・安心のためのサービスと情報発信の場、市政への参画の場としてまちの拠点となり、未来につながるまちづくりに取り組むべく、

新たな一歩を踏み出した重要な1年でありました。

さて、本年は東日本大震災の発生から15年を迎える年ですが、この間、数々の困難に直面しながらも、震災からの復興と地域活力の再生に向けた地方創生の歩みを着実に進めてまいりました。

その成果として、震災前の賑わいが戻りつつあり、本市を訪れる外国人観光客の数も、増加の一途を辿っています。

こうした流れを踏まえ、昨年は、本市への来訪者が最も多い台湾を私自ら訪問し、教育旅行の誘致や個人旅行者のさらなる増加を図るため、トップセールスを実施いたしました。

今後は、本年策定予定の「インバウンド誘客アクションプラン」に基づき、さらなる誘客に向け事業を展開してまいります。

また、震災以降、イオングループのご協力のもと継続して実施している「会津フェスタ」につきましては、これまでに約70回開催され、イベントでの売上を含むイオングループと地域内事業者の取引累計額は118億円に達しており、引き続き地場産品等の販路拡大に向けた取組を進めてまいります。

農業分野においては、令和9年度に本市で開催される「米・食味分析鑑定コンクール」に向け、「AiZ'S-RiCE（アイヅライス）」認定証授与式など関連行事の機会を捉え、本市独自にPRに取り組んできたところであり、今後もコンクールを活用したブランド化、環境保全型農業の推進など、これまでの取組のさらなる推進を図ってまいります。

また、本市の食料・農業・農村振興施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「第4次会津若松市食料・農業・農村基本計画」を策定してまいります。

一方で、本市を取り巻く環境に目を向けてみると、日本全国で急速に進行する少子高齢化・人口減少は本市においても喫緊の重要課題であり、AIをはじめとするデジタル技術の進展に加え、社会の在り方や人々の価値観、ライフスタイルなどが大きく変化する中において、山積する様々な課題に的確に対応していかなければなりません。

こうした中、本市では、これまで少子高齢化・人口減少の緩和に向けた様々な取組を進めてまいりましたが、引き続き、地域全体で婚活・結婚を応援する環境づくりに努めるとともに、各種移住支援策をさらに効率的・

効果的に展開することで、若年層を中心とした都会に住む方が、ふるさと会津に戻るという選択ができ、「帰っておいで」と自信を持って伝えることができる会津若松市を目指してまいります。

そのため、若い世代の子育てに対する経済的不安の軽減に向けて、子育て支援策の拡充を検討するとともに、確かな学力の向上に向けたあいづっこ学力向上推進計画に基づく各種取組や、市立学校体育館への空調設備の整備に向けた方針の策定など、子どもたちが健やかにいきいきと育つことができる環境の充実に取り組んでまいります。

また、現在整備している新たな工業団地の事業区域拡大等の検討や「スマートシティ AiCT」を中心としたICT関連企業のさらなる集積、さらには、若年層に対する市内企業への雇用促進と地元定着を図ることで、本市の雇用拡大と定住人口の増加につなげてまいります。

加えて、本年は、「さっぽろ雪まつり」における大雪像「会津鶴ヶ城」の制作・出展や、国内最大級の観光キャンペーンである「ふくしまデスティネーションキャンペーン」が予定されており、本市の魅力を全国へ広く発信することで、関係・交流人口の拡大を図ってまいります。

さらに、まちの拠点となる施設として、
まず、県立病院跡地の利活用につきましては、
屋内遊び場を核とした公共施設の整備を進め、
子育て環境の充実と子どもたちの居場所の確保に向け
整備を進めてまいります。

会津若松駅前の整備につきましては、昨年策定した
基本計画に基づき、関係事業者等との具体的な協議を進め、
駅前周辺の活性化に向けた官民連携の体制づくりについて
検討を進めてまいります。

また、現在、改修工事を行っている栄町第二庁舎に
つきましては、公共的な団体や参画・協働による
まちづくりを推進するための施設として機能を集約し、
連携した対応を行うことによる市民サービスの向上に
つなげていくことを目指し、令和8年度の供用開始に
向け、整備を進めてまいります。

このほか、さらなるごみの分別と減量を推進するため、
4月から家庭ごみ処理有料化制度の導入を予定しており、
市民の皆様にご理解、ご協力をいただきながら、
次の世代に住みよい環境を引き継いでいくため
「ゼロカーボンシティ会津若松」の実現に向けた取組を
進めてまいります。

また、本年は、市の最上位計画である、新たな総合計画を策定する年であります。

これまで、策定市民会議をはじめ、タウンミーティングや各種ワークショップなどを開催し、広く市民の皆様にご協力いただき、本市が抱える課題の共有を図るとともに、様々な視点からの提言を伺ってまいりました。

今後、さらに様々なご意見をいただきながら、希望のある本市の将来像を描き、今後10年間のまちづくりの指針を策定してまいりたいと考えております。

結びに、本年も、引き続き、市民の皆様の暮らしを守り、未来に向けて安心して暮らせるまちづくりを進めてまいりますので、市民の皆様におかれましては、本市並びに会津地域の発展のため、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。